

參考資料

障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム

～雇用を通じた障害者の社会参加を進めるために～

日 時／平成19年12月13日(木) 13:20～17:30(開場 12:30)

場 所／ベルサール西新宿1階ホール 東京都新宿区西新宿4-15-3(都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」A5出口より徒歩3分)

主 催：社団法人シルバーサービス振興会

後 援：厚生労働省／独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構／全国社会福祉協議会

障害者の地域生活と就労を進め、自立を支援するためには、障害者自立支援法の基本的理念にのっとり、企業等における障害者の積極的な雇用の促進を図っていく必要があります。企業が持続的成長を図るためにも「社会の中の企業である」という姿勢をより明確に打ち出すことが求められてきています。

今回のシンポジウムでは、障害者が「雇用」を通じて社会参加を図るために、「企業」と「福祉や教育に関わる機関」と「両者をつなぐ支援機関」の三者が、それぞれどのような役割を担い、連携を取るべきかについて考えてまいります。

プログラム

13:20	<input type="checkbox"/> 主催者挨拶	多田 宏(社団法人シルバーサービス振興会 理事長)
13:25	<input type="checkbox"/> 行政説明	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
14:30	<input type="checkbox"/> 基調講演 「山陰合同銀行における 知的障害者雇用への取組み」	古瀬 誠 氏(株式会社山陰合同銀行 取締役頭取) 聞き手 武田 牧子 氏 (厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域移行支援専門官)
15:15		休 憩
15:30	<input type="checkbox"/> パネルディスカッション 「雇用を通じた障害者の 社会参加 ～福祉と労働の連携～」	<p>■コーディネーター 金子 鮎子 氏(株式会社ストローク 代表取締役)</p> <p>■パネリスト 高木 麻理 氏(株式会社いなげや 人材開発部 主任) 武田 牧子 氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域移行支援専門官) 森 誠一 氏(独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 東京障害者職業センター多摩支所 支所長) 山地 圭子 氏(社会福祉法人 多摩^{しんりょう}棕櫚亭協会 就労移行支援事業ピアス 施設長) (五十音順)</p>
17:30		終 了

※シンポジウム終了後、アンケートを回収しますのでご協力をお願いします。

基調講演

古瀬 誠氏〈株式会社山陰合同銀行 取締役頭取〉

昭和44年株式会社山陰合同銀行入行。島大前支店長、人事部次長、松江駅前支店長、業務渉外部長、営業統括部長、RM推進部長を経て、平成12年取締役就任。平成17年取締役副頭取に就任、平成19年6月に取締役頭取に就任、現在に至る。平成19年9月に、山陰合同銀行では知的障害者を採用するとともに、専門的に就労する事業所「ごうぎんチャレンジドまつえ」を開設。開設までの取り組みや今後の運営ノウハウを公開し、地域社会全体で知的障害者の自立を支援していく、いわば地域におけるセーフティーネットのモデルケースを目指している。



パネルディスカッション(コーディネーター)

金子 鮎子氏〈株式会社ストローク 代表取締役〉

昭和30年日本放送協会入局、総務局を経て、テレビジョン局、報道局にて日本初の女性カメラマンとして活躍。その後、広報室、中央研修所等を経て、財団法人NHK研修センター等に勤務。昭和63年8月定年退職後、平成元年3月に、株式会社ストロークを設立、同代表取締役に就任、現在に至る。また、平成18年7月から平成19年7月まで厚生労働省「中小企業における障害者の雇用の促進に関する研究会」委員を務め、平成18年7月から厚生労働省「障害者職業能力開発推進会議」委員、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構「働く広場」編集委員も務める。



パネルディスカッション(パネリスト)

高木 麻理氏

〈株式会社いなげや 人財開発部 主任〉

平成2年株式会社いなげや入社(人事部配属)後、平成17年まで、給与計算、社会保険、労災、就業規則改訂などの業務を担当。平成17年9月より障害者の雇用管理およびパート制度の運用管理を担当、平成18年人財開発部に異動、現在に至る。

森 誠一氏

〈独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 東京障害者職業センター多摩支所 支所長〉

昭和56年採用後、地域障害者職業センター、障害者職業総合センター職業センターにて障害者職業カウンセラーとして勤務。平成17年4月より多摩支所勤務。障害者の方々への職業リハビリテーションサービスを通じ、就労支援に関わる業務をおこなっている。

武田 牧子氏

〈厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 地域移行支援専門官〉

昭和53年精神科病院に10年間勤務後、共同作業所開所。平成6年4月から社会福祉法人桑友が運営する精神障害者社会復帰施設に携わり平成19年5月より現職。平成6年より日本精神障害者リハビリテーション学会常任理事も務める。精神保健福祉士。

山地 圭子氏

〈社会福祉法人 多摩^{しゅう}棕櫚亭協会 就労移行支援事業 ピアス 施設長〉

昭和63年4月社会福祉法人滝乃川学園入職、平成元年4月国立市学童保育所を経て、平成3年4月東京都精神障害者共同作業所 棕櫚亭Iに入職。平成16年4月社会福祉法人多摩棕櫚亭協会ピアスへ異動、現在に至る。精神保健福祉士

障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム ～雇用を通じた障害者の社会参加を進めるために～

日 時／平成19年12月21日(金) 13:15～17:00(開場12:30)

場 所／広島県健康福祉センター 広島県南区皆実町1-6-29 (広島駅より市内電車南区役所前下車すぐ)

主 催：社団法人シルバーサービス振興会

協 力：社団法人広島県シルバーサービス振興会

後 援：厚生労働省／独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構／全国社会福祉協議会

障害者の地域生活と就労を進め、自立を支援するためには、障害者自立支援法の基本的理念にのっとり、企業等における障害者の積極的な雇用の促進を図っていく必要があります。企業が持続的成長を図るためにも「社会の中の企業である」という姿勢をより明確に打ち出すことが求められてきています。

今回のシンポジウムでは、障害者が「雇用」を通じて社会参加を図るために、「企業」と「福祉や教育に関わる機関」と「両者をつなぐ支援機関」の三者が、それぞれどのような役割を担い、連携を取るべきかについて考えてまいります。

プログラム

13:15	<input type="checkbox"/> 主催者挨拶	長橋 茂 <small>〈社団法人シルバーサービス振興会 常務理事〉</small>
13:20	<input type="checkbox"/> 行政説明	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
14:00	<input type="checkbox"/> 基調講演 「障害のある方を雇用する 立場から就労支援を考える」	箕輪 優子 氏 <small>〈横河電機株式会社 人財部〉</small>
14:45		休 憩
15:00	<input type="checkbox"/> パネルディスカッション 「雇用を通じた障害者の 社会参加 ～福祉と労働の連携～」	<p>■コーディネーター せき 関 宏之 氏<small>〈広島国際大学 医療福祉学部 教授〉</small></p> <p>■パネリスト 青山 貴彦 氏<small>〈松江障害者就業・生活支援センター 所長〉</small> 細田 千裕 氏<small>〈島根県立松江養護学校 進路指導主事〉</small> 箕輪 優子 氏<small>〈横河電機株式会社 人財部〉</small> 宮本 立史 氏<small>〈山陰合同銀行 経営企画部 調査役〉</small></p> <p style="text-align: right;">(五十音順)</p>
17:30		終 了

※シンポジウム終了後、アンケートを回収しますのでご協力お願いします。

基調講演

箕輪 優子 氏〈横河電機株式会社 人財部〉

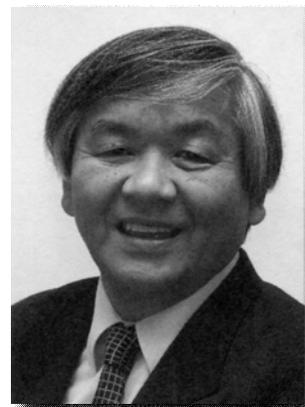
横河電機株式会社入社。人事企画、採用、教育、福利厚生、人材派遣事業の営業・コーディネーターを経験。知的障害者雇用促進のため、平成11年9月横河ファウンダリー株式会社を設立、取締役就任。平成14年7月企業グループ内における障害者雇用率の算定制度改正後、平成4年より携わっている障害者雇用の経験を活かし、障害者雇用に取り組むグループ各社人事担当者へのコンサルティングに従事。平成18年4月から平成19年7月まで厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部にて就労支援専門官を務める。平成19年8月より帰任、現在に至る。



パネルディスカッション(コーディネーター)

せき 関 宏之 氏〈広島国際大学 医療福祉部 教授〉

昭和45年より、社会福祉法人日本ライトハウス職業・生活訓練センター入社、同センター所長、法人常務理事を経て、大阪市障害者更生文化協会(現大阪市障害者福祉・スポーツ協会)理事、大阪市職業リハビリテーションセンター所長、大阪市職業指導センター所長、大阪市援助技術研究室室長などを経て、平成18年6月より広島国際大学医療福祉学部教授に就任、現在に至る。また、大阪障害者雇用支援ネットワーク代表理事も勤める。厚生労働省障害者雇用問題研究会、社会保障審議会障害者部会委員(平成15年12月まで)、日本身体障害者リハビリテーション協会総合リハ研究大会常任委員、大阪市障害者施策推進会議(座長)等を歴任。



パネルディスカッション(パネリスト)

青山 貴彦 氏

〈松江障害者就業・生活支援センター 所長〉

平成15年4月より、松江市教育文化振興事業団、神戸医療福祉専門学校精神保健福祉士科卒業、平成17年4月より、社会福祉法人桑友に勤務、現在に至る。日本精神障害者リハビリテーション学会に所属。精神保健福祉士。

箕輪 優子 氏

〈横河電機株式会社 人財部〉

基調講演者プロフィールを参照ください。

細田 千裕 氏

〈島根県立松江養護学校 進路指導主事〉

平成3年4月より島根県立松江農林高校講師を経て、平成4年4月島根県立浜田養護学校教諭として赴任。平成9年4月、島根県立隠岐養護学校へ異動。島根県特殊教育教諭試験を再受験。本格的に特別支援教育への道に進む。平成13年4月島根県立松江養護学校へ異動、現在に至る。

宮本 立史 氏

〈株式会社山陰合同銀行 経営企画部 調査役〉

昭和63年山陰合同銀行入行。山陰合同銀行経営企画部経営政策グループ調査役として現在に至る。知的障害者の専門的就労事業所である「ごうぎんチャレンジドまつえ」の企画、立ち上げ、運営管理に従事し、現在所長も兼務している。

2 アンケート調査票

障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム

アンケート票（東京会場版）

ご協力をお願い

このたびは「障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。引き続き、皆様のご意見やご感想を十分に踏まえて、障害者の雇用を促進したいと思っておりますので、お手数ではございますが、以下の質問に、ご回答下さいますようお願いいたします。

なお、回答用紙につきましては、シンポジウム終了後に受付にて回収させていただきます。

社団法人シルバーサービス振興会

◆ご記入上のお願い

- ・ご回答は、当てはまる回答の番号（数字またはアルファベット）に○印をつけてください。
- ・ご回答が「その他」の場合には、具体的にご記入ください。

【はじめにあなた自身のことについてお伺いします。】

Q1 あなたはおいくつですか。（1つお選び下さい）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 | 7. 70～79歳 | 8. 80歳以上 |

Q2 あなたの性別はどちらですか。（1つお選び下さい）

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

Q3 あなたの所属している組織の所在地は次のどれに当てはまりますか。（1つお選び下さい）

（個人の方は居住地をお答え下さい。）

- | | | | |
|--------------------------|--------|---------|--------|
| 1. 東京都 | 2. 千葉県 | 3. 神奈川県 | 4. 埼玉県 |
| 5. その他（具体的に_____都・道・府・県） | | | |

Q4 今回のシンポジウムを何で知りましたか。（1つお選び下さい）

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 新聞（具体的に_____） | 2. 開催案内の送付 |
| 3. 雑誌（具体的に_____） | 4. ホームページ → a. 振興会ホームページ |
| 5. 知人・友人などの紹介 | 6. メールマガジン → b. 知るナビホームページ |
| 7. その他（具体的に_____） | c. WAMNET |

（いずれかに○）

Q5 あなたの所属は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 企業関係者(経営者、取締役等) | 2. 企業関係者(人事・採用担当者) |
| 3. 企業関係者(その他) | 4. 特別支援学校関係者(盲・ろう・養護学校等) |
| 5. 就労移行支援事業者(授産施設関係等) | 6. 障害者雇用支援機関の関係者(ただし4と5を除く) |
| 7. 自治体職員(ただし4と5と6を除く) | 8. その他(具体的に) |

▶ **Q6 Q5で「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。あなたが所属されている組織(企業等)の従業員数は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)**

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 55人以下 | 2. 56～99人 | 3. 100～299人 |
| 4. 300～499人 | 5. 500～999人 | 6. 1000人以上 |

▶ **Q7 Q5で「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。あなたが所属されている組織(企業等)の業種は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)**

- | | | |
|-----------------|---------------------|---------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 2. 鉱業 | 3. 建設業 |
| 4. 製造業 | 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 ※1 | 6. 情報通信業 |
| 7. 運輸業 | 8. 卸売・小売業 | 9. 金融・保険・不動産業 |
| 10. 飲食店・宿泊業 | 11. 医療・福祉 | 12. 教育・学習支援業 |
| 13. 複合サービス事業 ※2 | 14. サービス業 ※3 | |

※1:熱供給業とは、一般の需要に応じ蒸気、温水、冷水等を媒体とする熱エネルギー又は蒸気もしくは温水を導管により供給する事業所。

※2:複合サービス事業とは、複数の事業を行う郵便局や協同組合など。

※3:サービス業とは、法律事務所などの専門サービスや生活関連サービス、娯楽業、物品賃貸業など。

【本日のシンポジウムについてお伺いします。】

Q8. シンポジウムの内容は理解しやすかったですか。(各項目1つずつお選び下さい)

	良く理解できた ←		ふつう		→ 理解できなかった
(1) 行政説明	5	4	3	2	1
(2) 基調講演	5	4	3	2	1
(3) パネルディスカッション	5	4	3	2	1

Q9 これまで障害者の雇用について、どのようにお考えになっていましたか？(1つお選び下さい)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. きわめて重要と考えていた | 2. どちらかと言えば重要と考えていた |
| 3. あまり重要とは考えていなかった | 4. 全く重要でないと考えていた |
| 5. その他(具体的に |) |

Q10 本日のシンポジウムに参加して、障害者の雇用に関してどのようにお感じになりましたか？
(1つお選び下さい)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. より一層、重要と考えるようになった | 2. 重要であるという認識は変わらない |
| 3. あまり重要でないと認識は変わらない | 4. あまり重要でないと考えるようになった |
| 5. その他(具体的に |) |

Q11 障害者の雇用を進める上で、どのようなことが参考になりましたか。(〇はいくつでも結構です)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 障害者雇用に関する制度の考え方 | 2. 障害者雇用の意義 |
| 3. 具体的な就労支援施策の内容 | 4. 企業の取り組み |
| 5. 雇用支援機関の取り組み | 6. 福祉施設や教育施設の取り組み |
| 7. その他(具体的に |) |

【障害者の雇用に向けた取り組みについてお伺いします。】

障害者の雇用や、障害者の福祉・教育などに関わる仕事や活動をしている人にお伺いします。それ以外の方は、裏面のQ15にお進み下さい。

Q12 障害者の雇用に向けた「取り組み」(障害者雇用の支援や障害者雇用の促進に関わる取り組みを含む)について、次の中から、あなたが所属している組織の現状や、あなたのお考えに近いものを選んで下さい。(各項目1つずつお選び下さい)

【これまでの取り組み】

1. 積極的に行ってきた
2. 少しは行ってきた
3. あまり行ってこなかった
4. 全く行ってこなかった
5. その他

(具体的に

【今後の取り組み】

1. これまでよりもさらに力を入れたい
2. これまでと同程度に進めたい
3. これまでよりも取り組みを縮小したい
4. 取り組む予定はない
5. その他

(具体的に

Q13 障害者の雇用に向けた関係機関(企業、福祉施設や教育機関、ハローワークや地域就業・生活支援センターなど)との間の「連携」について、次の中からあなたのお考えに近いものを選んで下さい。(各項目1つずつお選び下さい)

<p>【これまでの取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に連携を図ってきた 2. 少しは連携を図ってきた 3. あまり連携を図ってこなかった 4. 全く連携を図ってこなかった 5. その他(具体的に) 	<p>【今後の取り組み】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでよりもさらに力を入れたい 2. これまでと同程度に進めたい 3. これまでよりも連携を弱めたい </div> <ol style="list-style-type: none"> 4. 連携を図る意向はない 5. その他(具体的に)
---	--

▶ Q14 Q13の【今後】で、「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。とくにどのような取り組みを進める際に、連携が重要と考えますか。(○は3つ以内でお選び下さい)

1. 障害者雇用の計画づくり	2. 障害者の適性の把握
3. 障害者にあつた業務の選定や組み立て	4. 募集・採用活動
5. 障害者雇用に関する専門知識の習得	6. 処遇条件の設定
7. 障害者雇用に向けた職場内の意識づくり	8. 障害者雇用に向けた社内設備や施設の改善
9. 障害のある従業員の健康管理	10. その他(具体的に)

Q15 最後に、本日、お配りしたパンフレット「障害者雇用を考える Q&A」についてお伺いします。障害のある方が一般就労する上で、あるいは障害者の雇用を進めていく上で、参考になりそうですか。また、どのような活用が考えられますか。

(「Ⅰ」、「Ⅱ」は○を1つ、「Ⅲ」は当てはまるもの全てに○を付けて下さい)

Ⅰ:表 現	1. 分かりやすい	2. どちらとも言えない	3. 分かりにくい
Ⅱ:内 容	1. 参考になる	2. どちらとも言えない	3. あまり参考にならない
Ⅲ:活用方法	1. 障害者雇用の実務に活用	2. 経営層への説明資料に活用	
	3. 職場の意識啓発に活用	4. 障害のある方への情報提供に活用	
	5. ご自身の知識習得に活用	6. その他(具体的に)	

その他、ご意見・ご感想があれば、お聞かせ下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
お帰りの際に、受付にお渡し下さいますよう、お願いいたします。

障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム

アンケート票（広島会場版）

ご協力をお願い

このたびは「障害者雇用促進 普及啓発シンポジウム」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。引き続き、皆様のご意見やご感想を十分に踏まえて、障害者の雇用を促進したいと思っておりますので、お手数ではございますが、以下の質問に、ご回答下さいますようお願いいたします。

なお、回答用紙につきましては、シンポジウム終了後に受付にて回収させていただきます。

社団法人シルバーサービス振興会

◆ご記入上のお願い

- ・ご回答は、当てはまる回答の番号（数字またはアルファベット）に○印をつけてください。
- ・ご回答が「その他」の場合には、具体的にご記入ください。

【はじめにあなた自身のことについてお伺いします。】

Q1 あなたはおいくつですか。（1つお選び下さい）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 | 7. 70～79歳 | 8. 80歳以上 |

Q2 あなたの性別はどちらですか。（1つお選び下さい）

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

Q3 あなたの所属している組織の所在地は次のどれに当てはまりますか。（1つお選び下さい） （個人の方は居住地をお答え下さい。）

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|--------|
| 1. 広島県 | 2. 岡山県 | 3. 山口県 | 4. 島根県 |
| 5. 鳥取県 | 6. その他（具体的に_____都・道・府・県） | | |

Q4 今回のシンポジウムを何で知りましたか。（1つお選び下さい）

- | | | | |
|-------------------|------------|--|----------|
| 1. 新聞（具体的に_____） | 2. 開催案内の送付 | → a. 振興会ホームページ
b. 知るナビホームページ
c. WAMNET | （いずれかに○） |
| 3. 雑誌（具体的に_____） | 4. ホームページ | | |
| 5. 知人・友人などの紹介 | 6. メールマガジン | | |
| 7. その他（具体的に_____） | | | |

Q5 あなたの所属は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 企業関係者(経営者、取締役等) | 2. 企業関係者(人事・採用担当者) |
| 3. 企業関係者(その他) | 4. 特別支援学校関係者(盲・ろう・養護学校等) |
| 5. 就労移行支援事業者(授産施設関係等) | 6. 障害者雇用支援機関の関係者(ただし4と5を除く) |
| 7. 自治体職員(ただし4と5と6を除く) | 8. その他(具体的に) |

▶ Q6 Q5で「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。あなたが所属されている組織(企業等)の従業員数は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 55人以下 | 2. 56～99人 | 3. 100～299人 |
| 4. 300～499人 | 5. 500～999人 | 6. 1000人以上 |

▶ Q7 Q5で「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。あなたが所属されている組織(企業等)の業種は次のどれに当てはまりますか。(1つお選び下さい)

- | | | |
|-----------------|---------------------|---------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 2. 鉱業 | 3. 建設業 |
| 4. 製造業 | 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 ※1 | 6. 情報通信業 |
| 7. 運輸業 | 8. 卸売・小売業 | 9. 金融・保険・不動産業 |
| 10. 飲食店・宿泊業 | 11. 医療・福祉 | 12. 教育・学習支援業 |
| 13. 複合サービス事業 ※2 | 14. サービス業 ※3 | |

※1:熱供給業とは、一般の需要に応じ蒸気、温水、冷水等を媒体とする熱エネルギー又は蒸気もしくは温水を導管により供給する事業所。

※2:複合サービス事業とは、複数の事業を行う郵便局や協同組合など。

※3:サービス業とは、法律事務所などの専門サービスや生活関連サービス、娯楽業、物品賃貸業など。

【本日のシンポジウムについてお伺いします。】

Q8. シンポジウムの内容は理解しやすかったですか。(各項目1つずつお選び下さい)

	良く理解できた ←		ふつう		→ 理解できなかった
(1) 行政説明	5	4	3	2	1
(2) 基調講演	5	4	3	2	1
(3) パネルディスカッション	5	4	3	2	1

Q9 これまで障害者の雇用について、どのようにお考えになっていましたか？(1つお選び下さい)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. きわめて重要と考えていた | 2. どちらかと言えば重要と考えていた |
| 3. あまり重要とは考えていなかった | 4. 全く重要でないと考えていた |
| 5. その他(具体的に |) |

Q10 本日のシンポジウムに参加して、障害者の雇用に関してどのようにお感じになりましたか？
(1つお選び下さい)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. より一層、重要と考えるようになった | 2. 重要であるという認識は変わらない |
| 3. あまり重要でないと認識は変わらない | 4. あまり重要でないと考えるようになった |
| 5. その他(具体的に |) |

Q11 障害者の雇用を進める上で、どのようなことが参考になりましたか。(〇はいくつでも結構です)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 障害者雇用に関する制度の考え方 | 2. 障害者雇用の意義 |
| 3. 具体的な就労支援施策の内容 | 4. 企業の取り組み |
| 5. 雇用支援機関の取り組み | 6. 福祉施設や教育施設の取り組み |
| 7. その他(具体的に |) |

【障害者の雇用に向けた取り組みについてお伺いします。】

障害者の雇用や、障害者の福祉・教育などに関わる仕事や活動をしている人にお伺いします。それ以外の方は、裏面のQ15にお進み下さい。

Q12 障害者の雇用に向けた「取り組み」(障害者雇用の支援や障害者雇用の促進に関わる取り組みを含む)について、次の中から、あなたが所属している組織の現状や、あなたのお考えに近いものを選んで下さい。(各項目1つずつお選び下さい)

【これまでの取り組み】

1. 積極的に行ってきた
2. 少しは行ってきた
3. あまり行ってこなかった
4. 全く行ってこなかった
5. その他

(具体的に

【今後の取り組み】

1. これまでよりもさらに力を入れたい
2. これまでと同程度に進めたい
3. これまでよりも取り組みを縮小したい
4. 取り組む予定はない
5. その他

(具体的に

Q13 障害者の雇用に向けた関係機関(企業、福祉施設や教育機関、ハローワークや地域就業・生活支援センターなど)との間の「連携」について、次の中からあなたのお考えに近いものを選んで下さい。(各項目1つずつお選び下さい)

<p>【これまでの取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に連携を図ってきた 2. 少しは連携を図ってきた 3. あまり連携を図ってこなかった 4. 全く連携を図ってこなかった 5. その他(具体的に) 	<p>【今後の取り組み】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでよりもさらに力を入れたい 2. これまでと同程度に進めたい 3. これまでよりも連携を弱めたい </div> <ol style="list-style-type: none"> 4. 連携を図る意向はない 5. その他(具体的に)
---	--

▶ Q14 Q13の【今後】で、「1」～「3」のいずれかに○を付けた方にお伺いします。とくにどのような取り組みを進める際に、連携が重要と考えますか。(○は3つ以内でお選び下さい)

1. 障害者雇用の計画づくり	2. 障害者の適性の把握
3. 障害者にあつた業務の選定や組み立て	4. 募集・採用活動
5. 障害者雇用に関する専門知識の習得	6. 処遇条件の設定
7. 障害者雇用に向けた職場内の意識づくり	8. 障害者雇用に向けた社内設備や施設の改善
9. 障害のある従業員の健康管理	10. その他(具体的に)

Q15 最後に、本日、お配りしたパンフレット「障害者雇用を考える Q&A」についてお伺いします。障害のある方が一般就労する上で、あるいは障害者の雇用を進めていく上で、参考になりそうですか。また、どのような活用が考えられますか。

(「Ⅰ」、「Ⅱ」は○を1つ、「Ⅲ」は当てはまるもの全てに○を付けて下さい)

Ⅰ:表 現	1. 分かりやすい	2. どちらとも言えない	3. 分かりにくい
Ⅱ:内 容	1. 参考になる	2. どちらとも言えない	3. あまり参考にならない
Ⅲ:活用方法	1. 障害者雇用の実務に活用	2. 経営層への説明資料に活用	
	3. 職場の意識啓発に活用	4. 障害のある方への情報提供に活用	
	5. ご自身の知識習得に活用	6. その他(具体的に)	

その他、ご意見・ご感想があれば、お聞かせ下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
お帰りの際に、受付にお渡し下さいますよう、お願いいたします。

この調査研究事業は、厚生労働省の障害者保健福祉推進事業補助金（障害者自立支援調査研究プロジェクト）事業の一環として行われたものです。

企業等における障害者の雇用促進のための普及啓発事業 報告書

平成 20 年 3 月発行

内容照会先 社団法人 シルバーサービス振興会 企画部

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3 丁目 1 番地 1

TEL : 03-5276-1602 FAX : 03-5276-1601